

センターだより

第77号

令和6年9月30日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

あおもり教育研究発表会2024のお知らせ

開催期日：令和6年11月15日（金）

開催場所：青森県総合学校教育センター



参加の申込みは、こちらの二次元コードの読み取りからできます。

※当日の講演や発表は、全てオンラインでのご参加（視聴）が可能です。（要申込）

※「センター研究発表」「2年目研究員研究発表」は、後日オンデマンド配信します。

希望する場合は、お申込みください。（視聴可能期間：11月25日～12月27日）

【予定している発表等の内容】

- 8：50 受付開始
- 9：20 あおもり教育研究発表会開会行事
- 9：30 センター研究発表（学校におけるICTの効果的な利活用）
 - ※「国語」「社会、地理歴史、公民」「算数、数学」「理科」
 - 「音楽、図画工作、美術」「体育、保健体育」「家庭、技術・家庭」
 - 「外国語」「特別支援教育」「特別の教科 道徳」グループが発表を行います。
- 12：00 昼食・休憩
- 13：00 青森県総合学校教育センター2年目研究員研究発表
- 15：00 講演「クラウド活用を基盤とした学習者主体の授業をデザインする-個別最適な学びにおけるICTの活用-」
放送大学准教授 小林 祐紀 氏
- 16：30 終了

【講演会】

講師：放送大学 准教授 小林 祐紀 氏

演題：「クラウド活用を基盤とした学習者主体の授業を

デザインする -個別最適な学びにおけるICTの活用-」



公立小学校教諭を経て2015年4月～2024年3月まで茨城大学教育学部准教授。専門は教育工学、ICTを活用した教育実践研究。日本教育メディア学会理事、日本デジタル教科書学会理事、AI時代の教育学会理事。文部科学省学校DX戦略アドバイザー、文部科学省委託事業「主体的・対話的で深い学びの充実に資するデジタル教科書をはじめとするICT機器等を活用した効果的な指導に関する実証研究事業」有識者委員などを歴任。

センター研究発表

－学校におけるICTの効果的な利活用(4/4年次研究)－

① 9:30～10:00

グループ名	研究テーマ	発表会場
算数、数学	統計分野におけるICTを活用した算数・数学科教育の研究	大研修室
外国語	生成AIを活用した外国語(英語)の授業づくり	中研修室
音楽、図画工作、美術	ICTを活用した音楽・図画工作・美術の授業づくり	CAD・CG研修室

② 10:10～10:40

グループ名	研究テーマ	発表会場
体育、保健体育	体育科・保健体育科の学習指導における1人1台端末の活用	大研修室
理科	理科の授業におけるICTの効果的な利活用	中研修室
社会、地理歴史、公民	1人1台端末を活用したメディアリテラシーを育む授業開発研究	CAD・CG研修室

③ 10:50～11:20

グループ名	研究テーマ	発表会場
国語	ICTを活用した国語科の授業づくりに関する研究	大研修室
特別支援教育	読み書きに困難のある児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究 －研修パッケージの作成－	CAD・CG研修室

④ 11:30～12:00

グループ名	研究テーマ	発表会場
家庭、技術・家庭	家庭科、技術・家庭科の指導における主体的な学びに対応する、生徒の個別課題支援のためのICT活用の工夫・研究	大研修室
特別の教科 道徳	特別の教科 道徳の学習におけるICTの効果的な利活用に関する研究 －個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指した指導－	CAD・CG研修室

2年目研究員研究発表

① 13:00～13:30

発表者	研究主題	発表会場
大高 将紀	中学校における不登校の予防的支援に関する研究 －学校風土の可視化に対応した授業改善を通して－	大研修室
秋山 英子	小学校第6学年理科において、科学的に考察する力を高める指導法の研究 －結果について多面的に考える活動を通して－	中研修室
氣仙 泰介	小学校算数科におけるUDLガイドラインに基づいた授業実践の有効性に関する研究 －児童の学習意欲の変容に着目して－	CAD・CG研修室

② 13:40～14:10

発表者	研究主題	発表会場
目時 仁	中学校におけるいじめ未然防止の取組に関する研究 －自己有用感を育む異年齢集団活動を通して－	大研修室
長尾 光一郎	中学校社会科地理的分野「日本の地域的特色と地域区分」の単元において、考えを表現する力を育成する指導法の研究 －「問い直し」で根拠を明確にする学習活動を通して－	中研修室
茶谷 真由子	小学校体育科表現運動領域「表現」において「伝える力」を高める指導法に関する研究 －集団思考場面の充実に向けたタブレット端末活用による授業実践を通して－	CAD・CG研修室

③ 14:20～14:50

発表者	研究主題	発表会場
板垣 彩	保護者と学校の信頼関係構築に関する研究 －小学校第1学年保護者の学校に対する安心感を促進する取組を通して－	中研修室
安田 麻衣	中学生が自己決定し行動する力の育成に関する研究 －AARサイクルを活用したプログラムの作成・実践を通して－	CAD・CG研修室

展 示

展示場所	展示内容
特別支援教育課棟	特別支援教育教材・教具展示会
中研修室前	図書資料室にある書籍等の紹介、ポスター(センター職員の「わたしのお勧めの一冊」)

2年目研究員研究の紹介 vol.1

義務教育課 研究員 秋山 英子

研究主題

小学校第6学年理科において、
科学的に考察する力を高める指導法の研究
－結果について多面的に考える活動を通して－

研究目的

小学校第6学年理科において、観察、実験などの結果を分析して解釈する活動の際に、「多面チャート」の活用を通して、結果について多面的に考えられるようにすることが、科学的に考察する力を高めるために有効であることを明らかにする。

研究概要

【結果について多面的に考える活動の工夫】

- 思考ツール(多面チャート)を作成し、思考の流れを視覚化
- 多面的に分析したり解釈したりするためのポイントを提示
- ICTを効果的に活用し、全ての班の実験の様子を共有



2年目研究員研究の紹介 vol.2

義務教育課 研究員 長尾 光一郎

中学校社会科地理的分野「日本の地域的特色と地域区分」
の単元において、考えを表現する力を育成する指導法の研究
－「問い直し」で根拠を明確にする学習活動を通して－

【研究目的】

中学校社会科地理的分野「日本の地域的特色と地域区分」の単元において、表現する力を育成するためには、単元の中で自らの思考・判断の根拠を明確にする「問い直し」を行うことが有効であることを明らかにする。

【研究概要】

自身の意見に対して、自分自身で質問や反論を考え、それに対する返答まで考える『問い直し』の実施

◆単元を貫くパフォーマンス課題(エネルギーミックスについての提案書作成)の設定

◆単元内で三度の問い直し

◆単元の終末で提案書作成



2年目研究員研究の紹介 vol.3

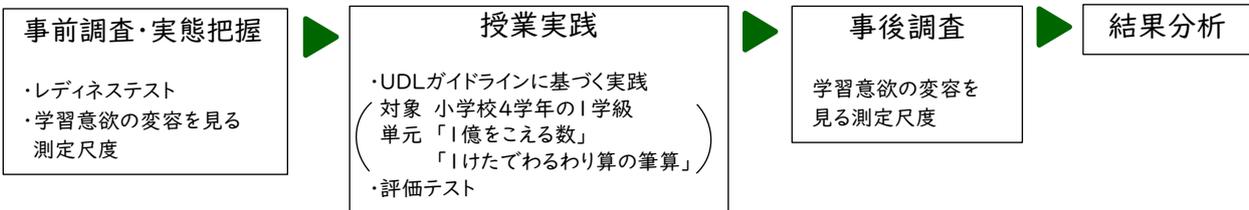
特別支援教育課 研究員 氣仙 泰介

研究主題 小学校算数科におけるUDLガイドラインに基づいた授業実践の有効性に関する研究
—児童の学習意欲の変容に着目して—

研究目標 多様な教育的ニーズを有する児童が在籍する小学校の通常の学級において、UDLガイドラインに基づいた算数科の授業実践をすることが、児童の学習意欲の向上に有効であるかを明らかにする。

研究仮説 UDLガイドラインに基づいた算数科の授業実践（児童の多様な教育的ニーズに応じた教材や学習方法・手段等を提供する等）をすることで、自分に合った学び方を選択し、課題を解決する様子が見られる等、意欲的に学習に取り組む態度の育成につながり、児童の学習意欲が向上するのではないか。

研究方法



2年目研究員研究の紹介 vol.4

産業教育課 研究員 茶谷 眞由子

小学校体育科表現運動領域「表現」において
「伝える力」を高める指導法に関する研究
—集団思考場面の充実に向けたタブレット端末活用による授業実践を通して—

研究目標

小学校体育科表現運動領域「表現」において、児童の「伝える力」を高めるためには、タブレット端末を活用して集団思考場面の充実させることが有効であることを明らかにする。

研究方法

タブレット端末活用の3つの柱の実施

- ①イメージや思いをまとめるスライドワークシート 「インスタントシート」
- ②題材・動き・言語の困り感に合わせてヒントを選択 「表現学習フォルダ」
- ③心と体をほぐす準備運動・補助的な運動の効率化 「表現アップタイム」

集団思考場面の充実



「伝える力」を高める



検証方法

- ◇「ENDCOREモデル」による尺度調査
- ◇動作数・言語数の分析
- ◇4大行動場面における時間配分の分析
- ◇行動・言語の文字化 等

2年目研究員研究の紹介 vol.5

教育相談課 研究員 安田 麻衣

研究
主題

中学生が自己決定し行動する力の育成に関する研究

－ AARサイクルを活用したプログラムの作成・実践を通して －

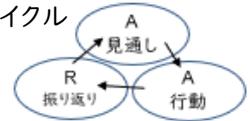
研究
目的

中学2年生を対象に「AARサイクルを活用したプログラム」を作成し、実践することが、自己決定し行動する力を育むことに有効かを明らかにする

研究
概要

プログラムの全体構成

※AARサイクル:資質や能力を育成する「見通し→行動→振り返り」のサイクル



AARサイクルを活用したプログラム

自分を知る活動
自己理解・自己受容

自己決定し行動する活動
(目標設定・AARサイクル)
第1弾:清掃活動・第2弾:保健体育

自己決定し行動
する力の育成

○検証方法:自己受容測定スケール・自己決定意識尺度・生徒エージェンシー尺度

○自己決定した内容:清掃活動:目標・清掃時間内の行動の見通し

:保健体育:目標・技術習得への見通し・練習時間・課題クリアへの見通し

2年目研究員研究の紹介 vol.6

研究主題

教育相談課 研究員 大高 将紀

中学生における不登校の予防的支援に関する研究
－学校風土の可視化に対応した授業改善を通して－

研究目的

中学生を対象に、より良い学校風土構築プログラムを作成し、実践をすることで、安心できる学校風土を醸成することが、不登校の予防的支援に有効であることを、研究をもって明らかにする。

研究概要

IV 生徒の内面にある, 不登校傾向心理の低減 **不登校の
予防的支援**

III 学校風土の向上

授業の中での生徒指導
魅力ある学校づくり

II より良い学校風土構築プログラムの実施

I 事前調査による傾向分析

学校風土の
「見える化」

学校風土の「見える化」のために、
日本学校風土尺度の活用
作成:子どもの発達科学研究所
学校風土を4つの側面で捉え、
32項目の質問で構成



1 安全	A 安全 B 決まり
2 教えと学び (学習)	A 授業 B こころの教育
3 関係性	A 子ども同士 B 子どもと先生 C 子どもと学校 D 子どもと集団
4 環境	A 物理的環境 B 地域・保護者

2年目研究員研究の紹介 vol.7

教育相談課 研究員 目時 仁

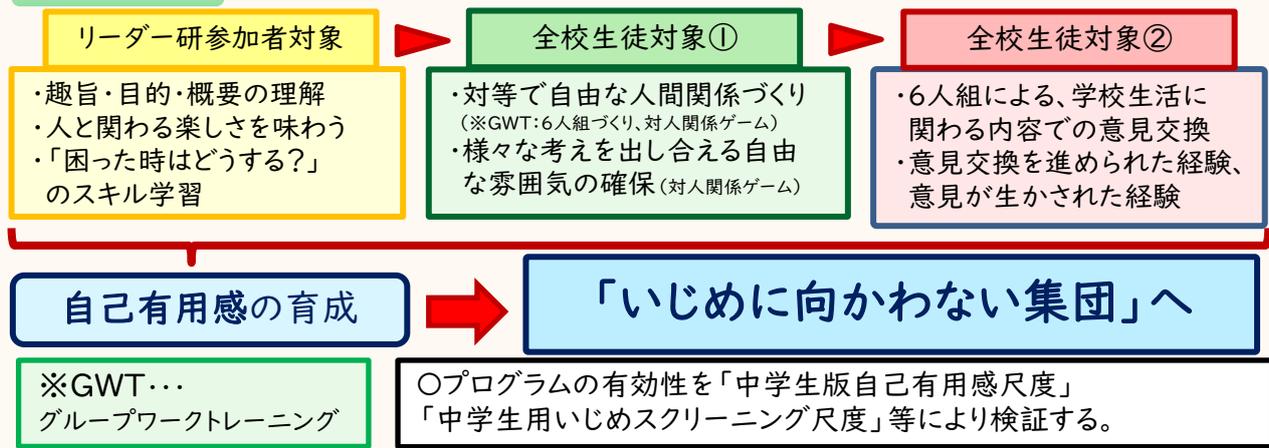
研究主題

中学校におけるいじめ未然防止の取組に関する研究
－自己有用感を育む異年齢集団活動を通して－

研究目的

中学生を対象に、生徒会活動を中心とした異年齢集団活動を計画・実践し自己有用感を育むことは、いじめが生まれにくい集団づくりに有効であることを明らかにする。

研究概要



2年目研究員研究の紹介 vol.8

教育相談課 研究員 板垣 彩

研究主題

保護者と学校の信頼関係構築に関する研究
－小学校第1学年保護者の学校に対する安心感を促進する取組を通して－

研究目的

小学校1年生を対象に、児童がスムーズに学校生活へ適応するためのプログラムの実践と、保護者に向けてプログラムに関わる情報提供や交流会を開催することにより、保護者の学校への信頼が深まるかどうかを明らかにする。

研究概要

- 保護者に向けてプログラムスタート前に概要説明と交流会の開催
- 児童に向けて入学後の4月より安心感を高める学級適応プログラムの実施
- 保護者に向けてプログラムの内容や様子、授業に関わる情報提供を載せた通信の発行
- 保護者と児童に向けて通信の中に家族の会話を増やすための家庭で取り組む内容を載せ、プログラムを家庭で再現する



プログラムの有効性をスクールコミットメント尺度、SLAQ尺度(教師評定版・親評定版)により検討する。